

研究結果報告書

ソウル大学校人文学研究院

尹 朝鉄

【研究のテーマ】

近世前期における神代文字と言語思想

【研究結果】

神代文字とは「漢字伝来以前、あるいは仮名成立以前にあったとされる、日本語を書きあらわすための文字」である。だが、一般的に神代文字の事実上の起源は近世だと考えられている。本研究では、神代文字を近世思想史研究のための一材料として捉え、(1)言語思想と神代文字論との関係、(2)神代文字(論)の伝授をとりまく人的ネットワーク、(3)神代文字を伝える媒体の解明を目指した。以上のような課題設定の背景には、従来の神代文字観-学問の場では取るに足りない「虚偽」のものだとする考えや国学以前の時期における神代文字のあり様に対する無関心-への問題意識があった。

上記の課題の解明に向けて、一先ず、神代文字史上最も重要な文献の一つとされる平田篤胤の『神字日文伝』(3冊)を詳細に分析した。その結果、近世の神代文字が「秘伝の時代→考証の時代→出版の時代」という段階を辿ってきたことが明らかになった。なお、『神字日文伝』は、秘伝の時代を終わらせ、神代文字を考証・出版の時代へと移行させたという点でその画期性が認められると評価した。そして「国学者平田篤胤における神代文字の収集と出版」と題した論文(2023年12月)では、『神字日文伝』から神代文字の伝授関係を洗い出し、近代後期における「神代文字をめぐる人的ネットワーク」の実態を明らかにした。

また、日本の図書館などを訪ねて、神代文字関連の古文書を閲覧・入手できたのも有意義であった。なかでも『神字日文伝』の成立に影響を与えたと推測される一連の資料群(「『皇和神代字集』系統の文献」と命名)を新しく発見できたのは大きな成果であった。今回の研究では主として『神字日文伝』との関わりを中心に検討したが、今後、個々の資料に対してもより深い分析を試みたい。

ところで、研究を進める中で、『神字日文伝』が篤胤のオリジナルの著作ではなく、彼の門人佐藤信淵の『神字日文考』をもとにした改作である可能性が浮上してきた。従来の研究では信淵が『神字日文伝』を剽窃したと考えられてきたが、分析の結果、実はその逆である可能性が高いことが分かった。現在はあくまでも仮説の段階ではあるが、もしこれが事実であれば、これまでの近世神代文字の研究の前提が大きく揺らぐことになる。そこで二つの文献の関係について論じた論文を書き上げ、雑誌に投稿して結果を待っているところである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

- ・ 題名 : 「集めて、考証して、信じて : 平田篤胤における神代文字の収集と出版」
- ・ 発表者 ; 尹朝鉄
- ・ 会議名 : (韓国)日本史学会月例会
- ・ 日時 : 2023年9月16日
- ・ 場所 : 成均館大学校退溪人文館 (31503号室)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- ・ 題名 : 「国学者平田篤胤における神代文字の収集と出版 : 近世の神代文字のあり様に注目して」 (韓国語)
- ・ 発表者 : 尹朝鉄
- ・ 論文掲載誌 : 『日本歴史研究』第62号
- ・ 掲載時期 : 2023年12月
- ・ ※論文に住友財団から助成を受けた旨の謝辞を記載

Seoul National University

Yun Jo Cheol

Subject of Research Project :

Jindai Moji and Linguistic Thought in the Early Modern Period

This research focused on Hirata Atsutane's *Kannahifumiden*(神字日文伝), which is considered one of the most significant texts in the history of *jindai moji*-a script believed to have existed prior to the introduction of Chinese characters or the establishment of kana, used for recording the Japanese language-. As a result, I revealed that the development of *jindai moji* during the early modern period unfolded in three distinct phases: the era of secret transmission, the era of historical verification, and the era of publication. Based on these findings, I published a paper titled "The Collection and Publication of *Jindai Moji* by Kokugaku Scholar Hirata Atsutane" (December 2023), which examined the transmission networks of *jindai moji* and elucidated the reality of human networks surrounding *jindai moji* in the late Edo period.

Additionally, I visited various libraries in Japan to investigate and collect old documents related to *jindai moji*. One unexpected outcome was the discovery of a series of texts presumed to have influenced the formation of *Kannahifumiden*, which I named the "*Kouwajindaijisyu*(皇和神代字集) Series."

During the research process, I realized that *Kannahifumiden* may not be Hirata's original work but rather a revised version based on *Kannahifumikou*(神字日文考) by his disciple Sato Nobuhiro. While previous research suggested that Nobuhiro had plagiarized *Kannahifumiden*, my analysis led to the opposite conclusion. Although this remains a hypothesis, if proven, it could significantly challenge the foundational assumptions of *jindai moji* studies. I have submitted a paper discussing the relationship between these two texts to an academic journal for review.